

議題3 被保護者への健康管理支援事業について

医療扶助の現状

— レセプトデータ分析結果 —

疾病の状況（令和元年度）

- ・被保護者の主傷病別にみた年間医療費上位10位のうち、7割が生活習慣病関連の疾患である。
- ・中でも慢性腎臓病は、延べ患者数に対して年間医療費が高額となっている。

（主傷病別年間医療費）

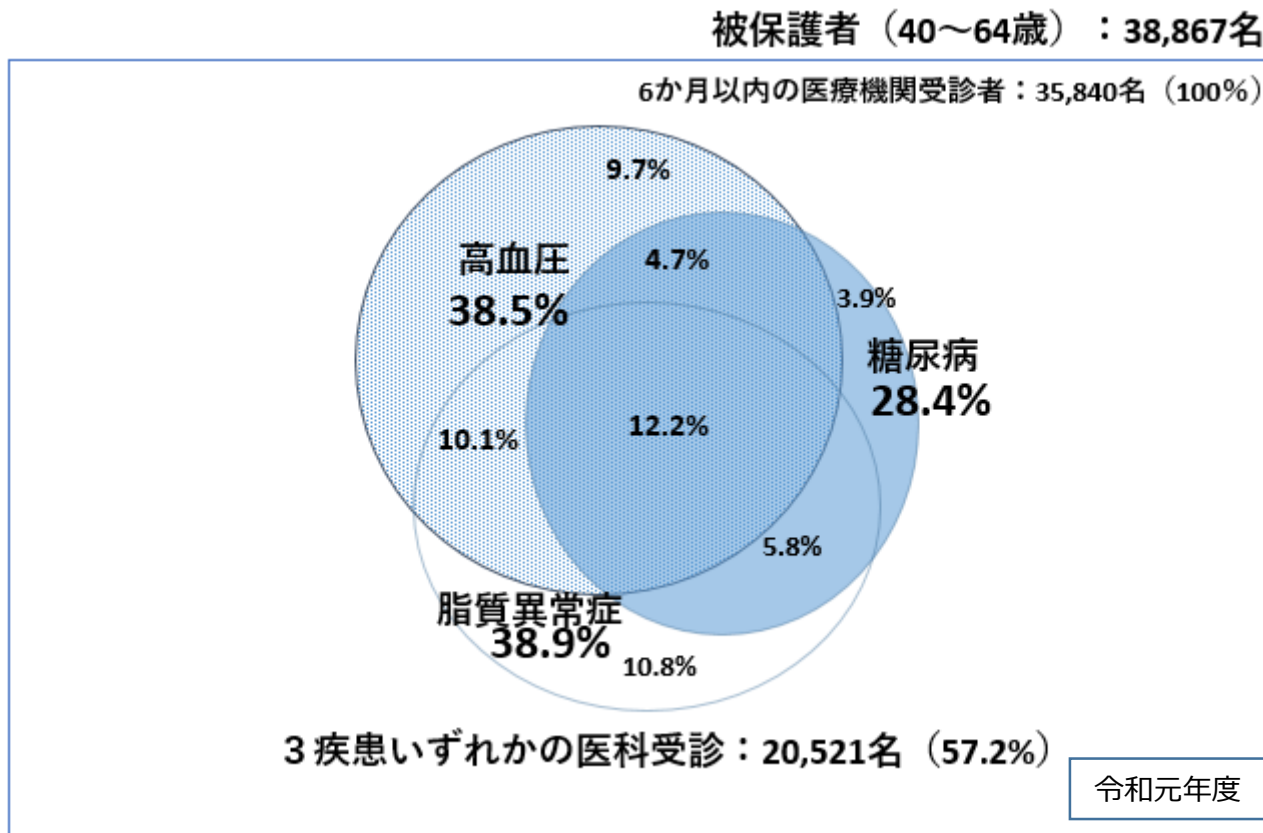
順位 (年間医療費)	中分類名	年間医療費 (百万円)	延べ患者数 (人)	1人あたり年間医療費 (円)
1	本態性（原発性＜一次性＞）高血圧（症）★	9,365	31,403	298,224
2	慢性腎臓病★	7,089	2,741	2,586,289
3	統合失調症	5,625	5,152	1,091,832
4	2型＜インスリン非依存性＞糖尿病＜NIDDM＞★	3,820	7,906	483,156
5	脳梗塞★	3,643	5,341	682,091
6	詳細不明の糖尿病★	3,369	10,092	333,792
7	心不全★	3,185	4,004	795,549
8	脳血管疾患の続発・後遺症★	2,335	3,602	648,345
9	大腿骨骨折	2,051	1,406	1,458,962
10	気管支及び肺の悪性新生物＜腫瘍＞	2,000	2,083	960,049

★・・・生活習慣病関連の疾患

令和元年度

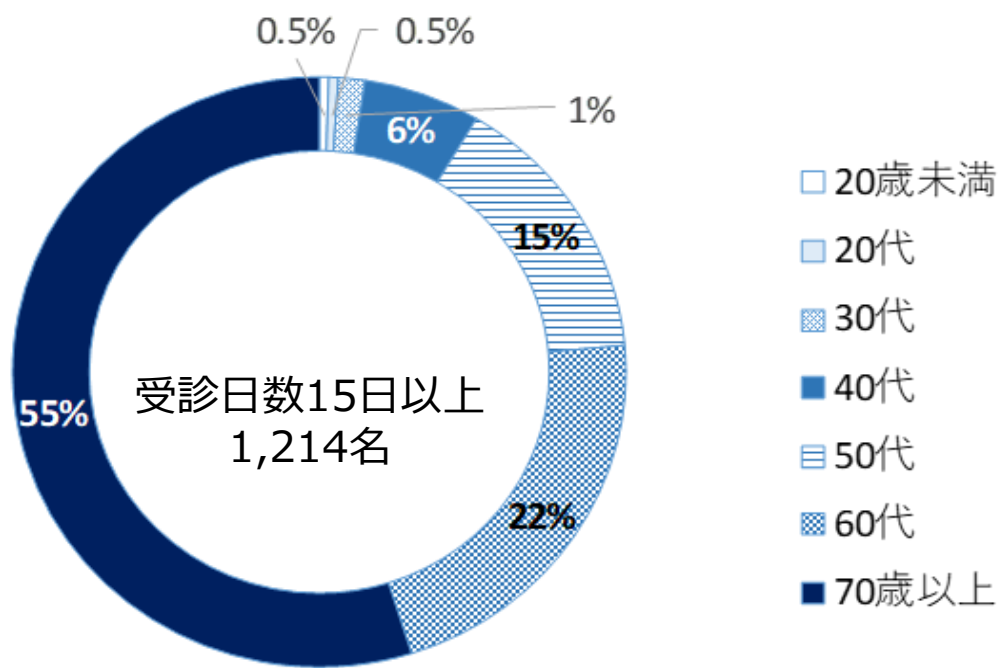
医療機関受診状況（令和元年度）

- ・40歳から64歳の被保護者のうち、9割以上が医療機関を受診をしている。
- ・高血圧・糖尿病・脂質異常症のいずれかでの受診は57.2%であり、3疾病を併発している者が12.2%と最も大きな割合を占めている。



頻回受診者の状況

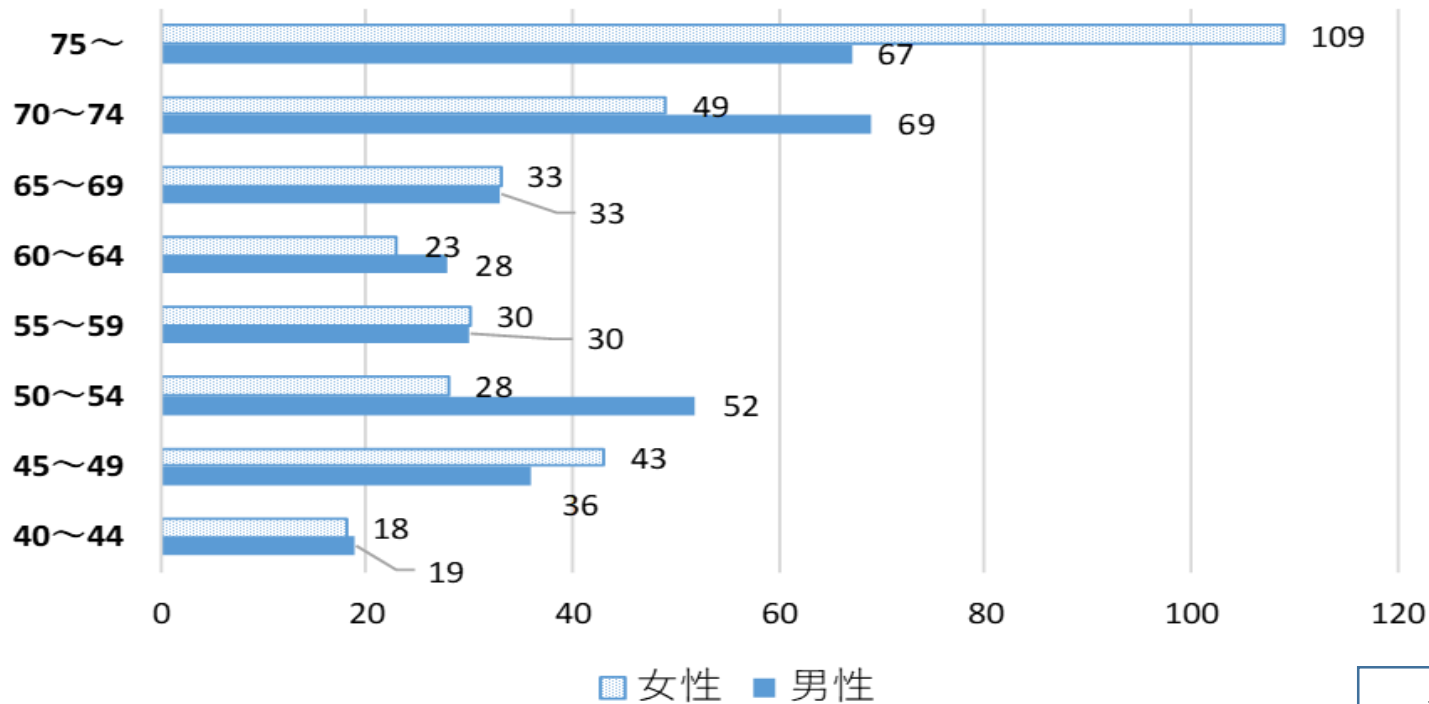
- ・令和2年3月診療分の外来レセプトにおいて、1月あたりの受診日数が15日以上であった者は1,214名となっている。
- ・頻回受診者の年代構成をみると、70歳以上の者が半数以上を占めている。



令和2年3月診療分 外来レセプト

健康診査の受診状況（令和元年度）

- ・被保護者数に比して、健康診査を受診している数（667名）が少ない。
- ・受診状況を見ると、男女比はほぼ同数。
- ・年齢構成では、75歳以上が最も多く、40代の受診者が最も受診が少ない。



令和元年度

現状分析から見えた課題

- (1) 医療費が高く、患者数も多い生活習慣病への健康管理支援が必要
被保護者の健康増進を図るために、レセプトデータを活用した受診中断者に対する医療機関受診勧奨や、生活習慣病の重症化予防のための専門職（保健師もしくは看護師資格を有する適正受診推進担当職員）による支援を実施する。
- (2) 未病者や初期の生活習慣病患者を早期発見し、適切な医療や支援に繋げるための取組みが必要
より若い世代の医療機関未受診者に対する健診受診勧奨を実施し、健康局との情報連携により、健診データや保健師による保健指導結果をもとに、医療機関受診勧奨や生活習慣病の重症化予防のための専門職による支援に繋げる。
- (3) 頻回受診に繋がっている背景的要因を把握し、適切な支援を実施することが必要
社会的孤立や健康上の不安から頻回受診に繋がっている被保護者に対して、従来の指導のみではなく、健康管理支援の観点を重視した包括的な支援を実施する。

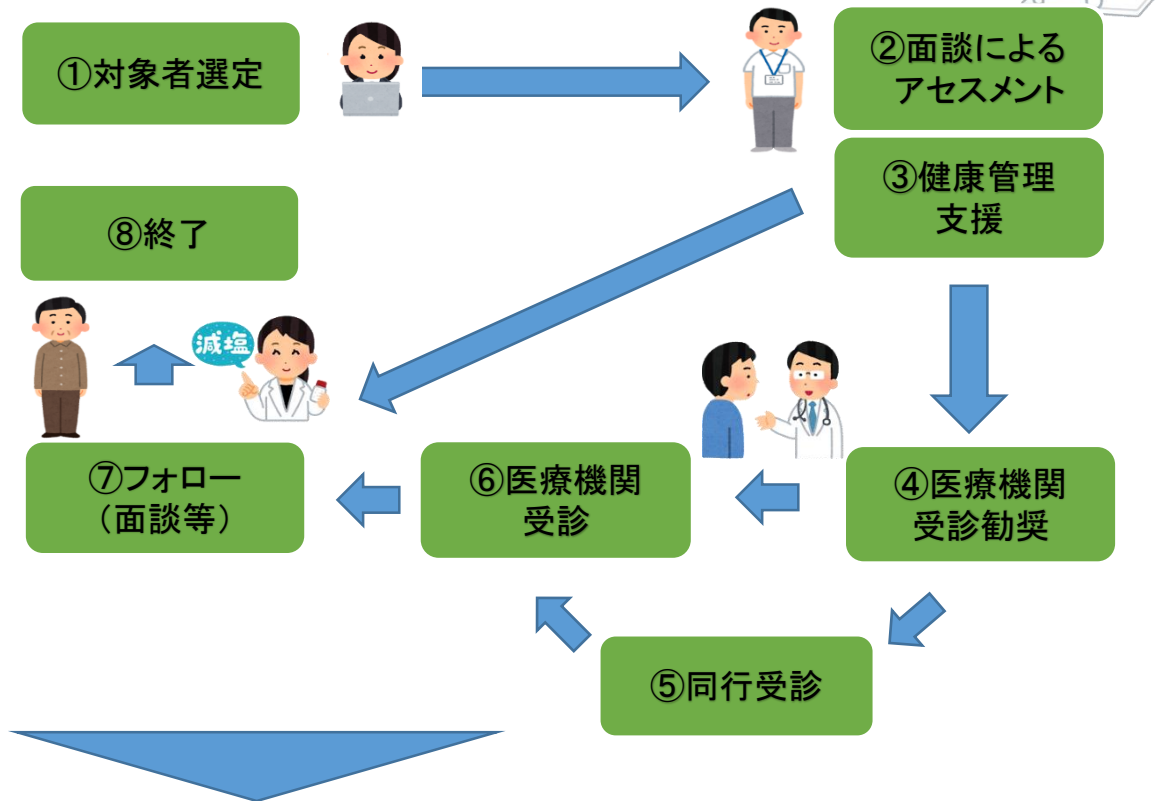
被保護者への健康管理支援事業について

生活保護法の改正により「被保護者健康管理支援事業」が創設。令和3年1月から必須事業化

取組項目

- (1) 健診受診勧奨
- (2) 医療機関受診勧奨
- (3) 生活習慣病重症化予防
※右図参照
- (4) 医療費通知を活用した頻回・
重複受診者に対する支援

(参考) 生活習慣病重症化予防の概略図



被保護者の健康状態・生活の質の向上 + 日常生活自立・社会生活自立の推進
を通じて医療扶助の適正化を図っていく。